

令和7(2025)年度 教育実習-11 航海実施表 2025-22

(2025/8/26 作成)

- 1、授業科目 「里海フィールド演習」 中四国地区大学:学部生、2単位・混乗
- 2、航海目的 一般海洋観測実習
- 3、実施内容 瀬戸内海の海洋生物と環境の相互作用及び人間生活との関係について基礎的知識を学び、体験する
- 4、期間 2025年08月25日(月) ~ 2025年08月26日(火) (2 日間)

集合時刻 12:45 広島大学生物生産学部附属練習船基地

※ 出港日07:00に広島県南部(呉・東広島)に大雨・洪水・暴風・大雪の警報発表の場合は延期又は中止とします。

5、日程

出港 Departure			入港 Arrival			航程 Distance	調査海域 Area	備考 Remark			
月日 Date	時刻 Time	港名 Port	月日 Date	時刻 Time	港名 Port	マイル mile		潮流 Slack	Max	Kt	
(月) 8/25	12:55	呉港	(月) 8/25	(通過) 13:25	音戸ノ瀬戸	4	音戸ノ瀬戸 安芸灘	教員・学生:呉乗船			
	(通過) 13:25	音戸ノ瀬戸		(通過) 14:17	安芸灘大橋	7	芸予瀬戸 猫瀬戸	乗船説明・訓練			
	(通過) 14:17	安芸灘大橋		15:06	ST-1 0:29	7	芸予瀬戸 大崎上島西	船橋見学・海洋観測 透明度、CTD、ハンドソ、SM			
	15:35	ST-1		16:55	広島県竹原市 竹原港	9	芸予瀬戸 竹原港	教員・学生:竹原下船 ハチ干潟・竹原ステーションへ			
(火) 8/26	07:50	広島県竹原市 竹原港	(火) 8/26	(通過) 09:30	安芸灘大橋	15	芸予瀬戸 猫瀬戸	船員のみで回航			
	(通過) 09:30	安芸灘大橋		(通過) 10:32	音戸ノ瀬戸	7	安芸灘 音戸ノ瀬戸				
	(通過) 10:32	音戸ノ瀬戸		10:55	呉港	4	音戸ノ瀬戸 安芸灘				
						合計 53	マイル	安芸灘 学内 ¥60,000			

6、乗船者

区分	所属及び氏名		員数	備考					
広大	教員	〔統合生命科学研究所〕 (准教授) 橋本 俊也	1	橋本:呉乗船→竹原下船					
小計 1	学部								
他 大学 等	学部	〔愛媛大学 農学部〕 (B3) 桐山 莉奈 ★	1	学生:呉乗船→竹原下船					
		〔香川大学 農学部〕 (B3) 榎並 和華菜 ★	2	〃					
		〔鳥取大学 農学部〕 (B1) 梶原 裕暉	2	〃					
		〔山口大学 農学部〕 (B3) 徳田 みのり ★	3	〃					
		(B3) 日本 竜馬	〃	〃					
		〔岡山大学 農学部〕 (B3) 廣瀬 拓人	6	〃					
		(B2) 川野 陽太	〃	〃					
		(B3) 松田 琉希	〃	〃					
		(B1) 山本 莉奈 ★	〃	〃					
		(B3) 白神 遼人	〃	〃					
小計 16		〔島根大学 生物資源科学部〕 (B1) 伏谷 芽星	2	〃					
豊 潮 丸	甲板部	(船長) 中口 和光	(三航士) 小櫻 峯之	6					
		(一航士) 加藤 幹雄	(甲板員) 半田 徹						
	(次一航) 近藤 栄作	(甲板員) 井原 達也							
機関部	(機関長) 藤原 政輝	(二機士)	3						
	(一機士) 山中 章文	(機関員) 山口 祐樹							
10	司厨部	(司厨長) 清水 大成	1						
男性		19 名	★女性	8 名	合計	27 名			

- 7、作業項目 ①表層採水、②小型CTD、③バンドン採水器、④透明度板、⑤SM採泥器、⑥ドレッジ
 8、豊潮丸準備品 CTD(小型・大型)、バンドン採水器、透明度板、SM採泥器、ドレッジ
 9、その他

①「学生教育研究災害傷害保険」or「その他保険」に加入していないと乗船できません。

②長ズボン、運動靴を着用のこと。(スカート、サンダル、クロックス、下駄等は禁止)

- 10、集合場所 広島大学生物生産学部附属練習船基地 呉市宝町7-4 電話0823-23-4853
 豊潮丸携帯電話080-1926-4877 豊潮丸衛星船舶電話090-3022-4347
 E-mail : toyoshio(a)hiroshima-u.ac.jp (a)を@に変更して送信してください。

<https://goo.gl/maps/peKAibUPzztgC7F77>



令和7(2025)年度 教育実習-11 航海予定表 2025-22

(2025/5/21 作成)

- 1、授業科目 「里海フィールド演習」 中四国地区大学:学部生、2単位・混乗
- 2、航海目的 一般海洋観測実習
- 3、実施内容 瀬戸内海の海洋生物と環境の相互作用及び人間生活との関係について基礎的知識を学び、体験する
- 4、期間 2025年08月25日(月) ~ 2025年08月26日(火) (2 日間)

集合時刻 12:45 広島大学生物生産学部附属練習船基地

※ 出港日07:00に広島県南部(呉・東広島)に大雨・洪水・暴風・大雪の警報発表の場合は延期又は中止とします。

- 5、日程 航海予定は船速 9.0 kt/hで計画しています。コロナ禍・気象等により変更になる場合があります。

出港 Departure			入港 Arrival			航程 Distance	調査海域 Area	備考 Remark	
月日 Date	時刻 Time	港名 Port	月日 Date	時刻 Time	港名 Port	マイル mile		潮流 Slack	Max Kt
(月) 8/25	13:00	呉港	(月) 8/25	(通過) 13:30	音戸ノ瀬戸	4	音戸ノ瀬戸 安芸灘	教員・学生:呉乗船	
	(通過) 13:30	音戸ノ瀬戸		(通過) 14:20	安芸灘大橋	7	芸予瀬戸 猫瀬戸		
	(通過) 14:20	安芸灘大橋		14:40	ST-1 1:00	3	芸予瀬戸 川尻南	船橋・機関室見学・海洋観測 透明度、CTD、ハンドソ、SM	
	15:40	ST-1		17:00	広島県竹原市 竹原港	12	芸予瀬戸 竹原港	教員・学生:竹原下船 竹原ステーションへ	
(火) 8/26	07:50	広島県竹原市 竹原港	(火) 8/26	(通過) 09:30	安芸灘大橋	15	芸予瀬戸 猫瀬戸	船員のみで回航	
	(通過) 09:30	安芸灘大橋		(通過) 10:20	音戸ノ瀬戸	7	安芸灘 音戸ノ瀬戸		
	(通過) 10:20	音戸ノ瀬戸		10:50	呉港	4	音戸ノ瀬戸 安芸灘		
						合計 52	マイル		

6、乗船者

区分	所属及び氏名		員数	備考				
広大	教員	〔統合生命科学研究所〕 (准教授) 橋本 俊也	1	橋本:呉乗船→竹原下船				
小計 1	学部							
他 大学 等	学部	〔愛媛大学 農学部〕 (B3) 桐山 莉奈 ★	1	学生:呉乗船→竹原下船				
		〔香川大学 農学部〕 (B3) 榎並 和華菜 ★ (B3) 高田 希颯 ★	2	〃				
		〔鳥取大学 農学部〕 (B1) 梶原 裕暉 (B1) 布野 麻菜美 ★	2	〃				
		〔山口大学 農学部〕 (B3) 徳田 みのり ★ (B3) 吉富 彩羅 ★	3	〃				
		(B3) 日本 竜馬		〃				
		〔岡山大学 農学部〕 (B3) 廣瀬 拓人 (B2) 川野 陽太 (B3) 松田 琉希 (B1) 山本 莉奈 ★ (B3) 白神 遼人 (B1) WIN PA PA PHYO ★	6	〃				
		〔島根大学 生物資源科学部〕 (B1) 伏谷 芽星 (B3) 川原 田希	2	〃				
豊 潮 丸	甲板部	(船長) 中口 和光 (三航士) 小櫻 峯之 (一航士) 加藤 幹雄 (甲板員) 半田 徹 (次一航) (甲板員) 井原 達也	6					
		(二航士) 近藤 栄作						
	機関部	(機関長) 藤原 政輝 (二機士) (一機士) 山中 章文 (機関員) 山口 祐樹	3					
10	司厨部	(司厨長) 清水 大成	1					
男性		19 名	★女性	8 名	合計	27 名		

- 7、作業項目 ①表層採水、②小型CTD、③バンドン採水器、④透明度板、⑤SM採泥器、⑥ドレッジ
- 8、豊潮丸準備品 CTD(小型・大型)、バンドン採水器、透明度板、SM採泥器、ドレッジ
- 9、その他
 ①「学生教育研究災害傷害保険」or「その他保険」に加入していないと乗船できません。
 ②長ズボン、運動靴を着用のこと。(スカート、サンダル、クロックス、下駄等は禁止)
- 10、集合場所 広島大学生物生産学部附属練習船基地 呉市宝町7-4 電話0823-23-4853
 豊潮丸携帯電話080-1926-4877 豊潮丸衛星船舶電話090-3022-4347
 E-mail : toyoshio(a)hiroshima-u.ac.jp (a)を@に変更して送信してください。

<https://goo.gl/maps/peKAibUPzztgC7F77>

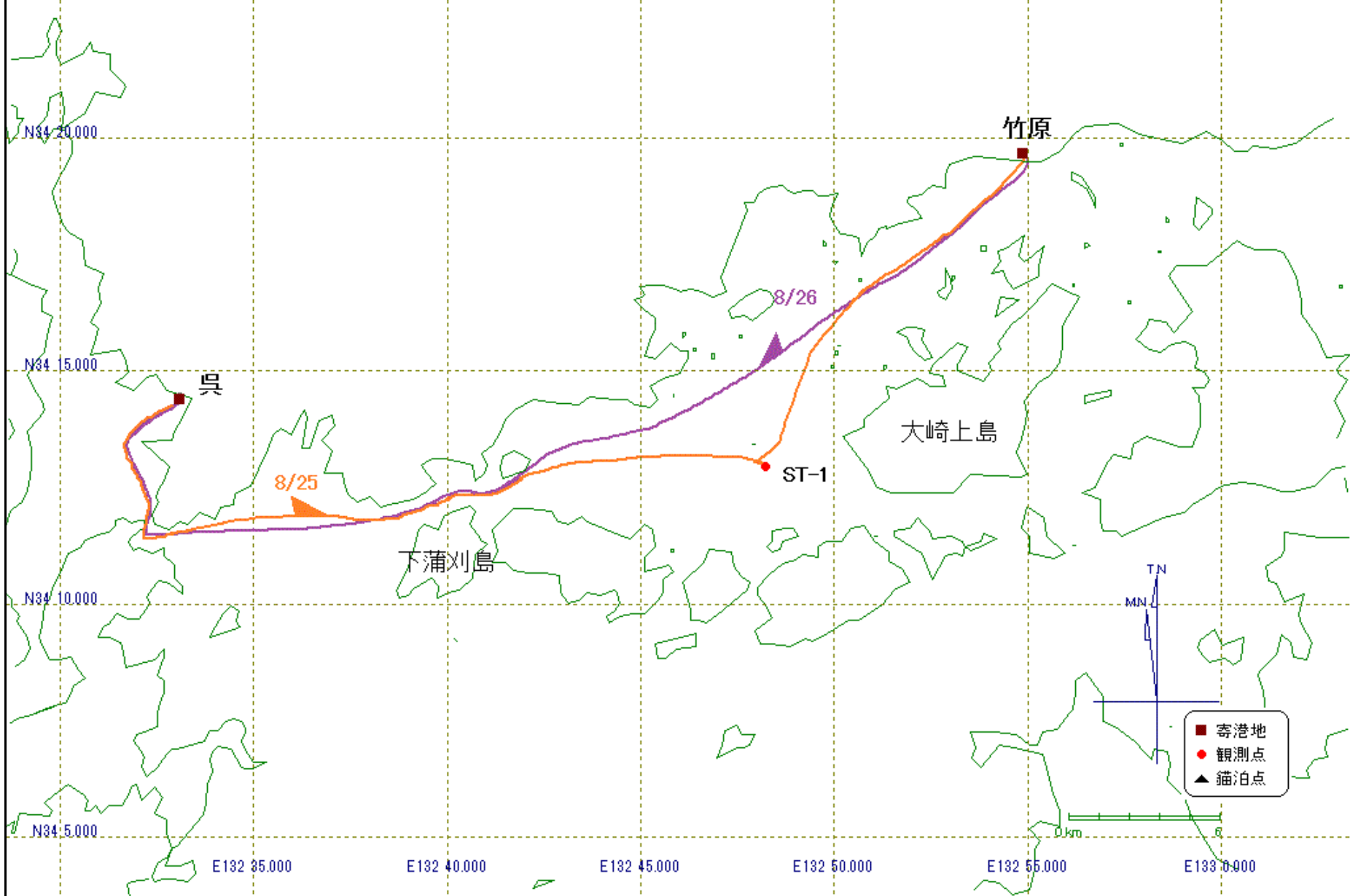


2025-22

観測点 (ST)	開始	終了	時間	観測内容	緯度	経度	水深m
8月25日	13:25	13:55	0:30	注意事項説明、遭難訓練及び防火訓練			
ST1 大崎上島西							
	15:06			小型CTD24m、バンドン採水器22m 2班 透明度、水色、統合管制室見学	34-12.984N	132-48.279E	24
		15:35	0:29	SM採泥器 全員			底質：砂泥

豊潮丸 2025-22 航海図

令和7年8月25日～令和7年8月26日



豊潮丸航海撮要日誌

No. 2025-22 航海 教育11

月日	正午位置	風向	風力	天候	気圧 (hPa)	気温 (°C)	水温 (°C)	航海時間	航海距離	平均速力	備考
8/25	呉港	WSW	1	b	1012.2	33.6	30.0	00-00	0.0	0.0	12:55 呉港出港 16:55 竹原港入港
8/26	呉港	NE	2	c	1012.1	27.5	30.0	07-05	52.5	7.4	07:50 竹原港出港 10:55 呉港入港
							合計	07-05	52.5	7.4	

世界測地系 WGS84

「 8月25日(月) 出港時」

※法定医薬品や航海に必要な物品の積込みを確認した。

食料：船員10名×2日分積込済み。

※積載物の積付は良好で、船舶の安全性を損なう状況に無いことを確認した。

※操舵設備、無線設備及び航海機器の作動状態の点検を行い、結果は良好であった。

喫水：DF 2.80m、DM (P&S) 2.90m、DA (P&S) 3.05m

「 8月26日(火) 入港時」

喫水：DF 2.80m、DM (P&S) 2.90m、DA (P&S) 3.05m

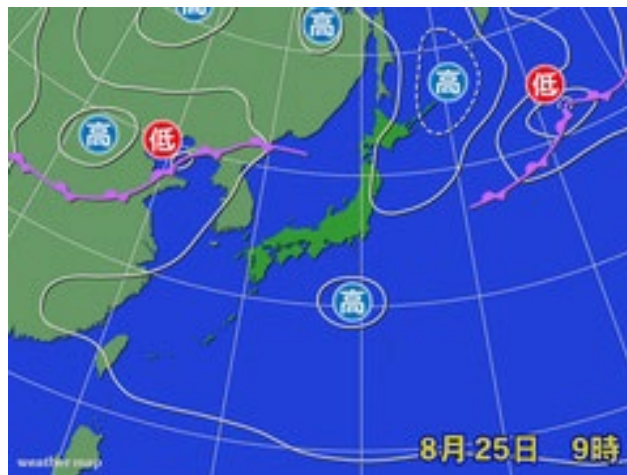
豊潮丸 2025-22 天気図

令和7年8月25日～令和7年8月26日

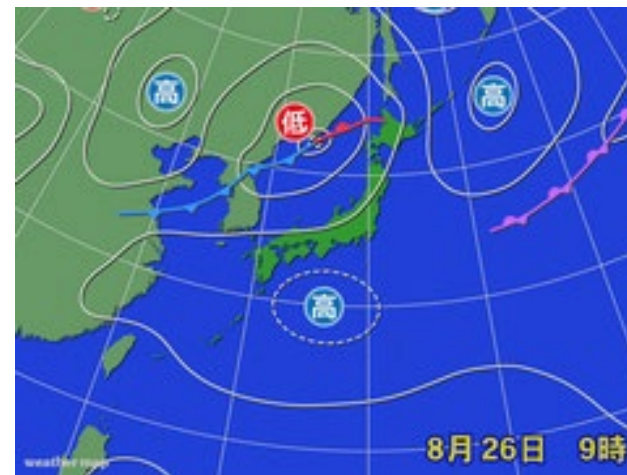
資料：株式会社ウェザーマップ『気象人』

<http://www.weathermap.co.jp/kishojin/>

⇒



1日目



2日目

運航調書

豊潮丸 (令和7年度)

No. 2025-22

航海名目	教育11 里海フィールド演習		
実施研究室	統合生命科学研究科、練習船		
期間	令和7年8月25日(月)	～	令和7年8月26日(火) 2日間
乗船者	教員 橋本 俊也 以下 1名	学生 桐山 莉奈 以下	16名
乗船者内訳	その他 以下 名	合計	以下 17名
愛媛大学農学部(学生1名)香川大学農学部(学生2名)			
鳥取大学農学部(学生2名)山口大学農学部(学生3名)			
岡山大学農学部(学生6名)島根大学生物資源科学部(学生2名)			

運航時間

航海	7時05分	錨泊	0時00分
港停泊	40時55分	入渠	00時00分

運転時間

発電機関	48時10分	作業艇	0時0分
推進機	13時34分	航走距離	52.5 浬

燃料等使用量

	A重油(ℓ)	潤滑油(ℓ)	ガソリン(ℓ)	灯油(ℓ)	飲料水(トン)
前航繰越量	59,854	2,802	80	53	
積込量	0	0	0	0	
整備使用量	0	0	0	0	
出港時所有量	59,854	2,802	80	53	41.1
積込量	0	0	0	0	0.0
使用量	1,443	2	0	0	2.3
残量	58,411	2,800	80	53	38.8

甲板部($\frac{2}{0}$) 機関部(藤原) 船長(中口)

【編集者：橋本俊也准教授】

里海フィールド演習豊潮丸航海実習を実施しました

中国・四国地区大学間連携フィールド演習・里海フィールド演習を実施しました。

この演習は、瀬戸内海の海洋生物と環境の相互作用およびそれらと人間生活との関係についての基礎的知識を総合的に学び、体験することを目的として、中四国の国公立大学の農学系学部の学生を対象に実施しています。6校（愛媛、香川、鳥取、山口、岡山、島根）から16名の学生が参加しました。参加者の1名は外国人（岡山大学、ミャンマー）でした。

2025年8月25日(月)13:00に練習船呉基地に集合・出港し、音戸の瀬戸を通過後、遭難訓練、海洋環境に関する講義を行い、安芸灘大橋を通過後に大崎上島西海域の観測点で約60分間の海洋観測実習を実施しました。私（橋本）、豊潮丸船員の指導のもと、CTDによる水温・塩分の鉛直分布の測定、バンドン採水器による底層水の採取、透明度の測定、海底泥の採取・観察などを行いました。また、操舵室（ブリッジ）や学生居室などの見学も行いました。

17:00ごろ竹原市明神岸壁に着岸し、参加者は下船しました。参加者は8月27日まで竹原ステーションの教員・TAの指導のもと、干潟調査による生物採集、採集生物の同定などを行う予定です。

わずか半日の航海実習でありましたが、基本的な海洋観測実習を行うことができ、有意義な実習となりました。また、音戸の瀬戸など瀬戸内海の景色を船上から見学することができ、参加者には貴重な体験になりました。今回の参加者の大学では海洋に関する実習をほとんど実施していないことから、初めて練習船に乗る学生がほとんどでした。これを機に海洋環境に関して興味をもってもらえることを期待します。

8月末とはいえ、強い日差しなかでの実習となりました。できるだけ室内で待機するなど熱中症に注意しながら実習を実施しました。



